

第 23 回 ちゅうでん教育振興助成（2023 年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	八幡市立橋本小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	特別支援学級における演劇を活かした SST 実践研究

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

本校には特別支援学級が 3 学級ある。近年、発達障害と重複して障害のある児童の在籍が増えつつあり、現在の在籍児童数 19 名の内、発達障害の診断を受けている児童が半数近い 8 名いる。また診断を受けていないものの、社会性に課題のある児童もおり、これらの児童も含めるとコミュニケーション上の課題のある児童は 12 名にのぼる。そのため教師の指導が入りにくい、暴言暴力が生まれやすいなど、指導上困難な事象がたびたび見られ苦慮していた。そんなおり、京都府南部地域の多くの学校でソーシャルスキルトレーニング（SST）の指導を行っている NPO 法人の存在を知り、相談を行った。この協議の中から、障害のある児童を対象に SST を実践し、児童の社会性の育成と学級集団指導への効果について研究するという計画が生まれた。

2. 活動・研究の目的

ソーシャルスキルトレーニングのプログラムをベースに、特に劇遊びや劇を活かしたトレーニングを、児童の実態に即して試行錯誤を重ねて行い、児童の社会性の育成と集団性の向上をめざす。

- ・学級全員の活動を楽しめ、大集団の行動に安心感が生まれるようにする。
- ・児童間の暴力的な関わりが減り、相手の気持ちに関心が持てるようになる。
- ・自らの行動を立ち止まって考えられるようになる。
- ・児童間や児童と先生の関係が和やかになる。
- ・身体で表現することへの抵抗が減り劇表現を通して互いの関係について考えられる。

3. 活動内容

【全体を通して留意したこと】5 校時に実施

- ・効果的に多様にコミュニケーションゲームを取り入れ、集団で楽しむ経験を豊かに行う。
- ・自らの身体を動かし言動を発する活動により心身を解放し自己表現を楽しめるようにする。
- ・友達や先生と和やかに関わる体験や、和やかな関わり合いを作る方法を考えられるようにする。
- ・講師が全体を運営し、講師と補助者となる俳優が適切に児童を支援する。

1 回目 9/4 〈交流をする・身体表現で心身を解放する〉

- 1) 動きの少ないコミュニケーションゲームの実施
- 2) 活動的なゲームの実施
- 3) 身体表現入りの歌導入

2 回目 9/15 〈互いに関わる・互いを知る〉

- 1) ペアで楽しみペアを交代していくコミュニケーションゲームの実施
- 2) ペアから集団へ移るゲーム実施

3 回目 9/22 〈仲間意識を持つ・友達に関心を持つ〉

- 1) 仲間が一つになるゲームを実施
- 2) 仲間捜しのゲームを実施
- 3) 身体表現入りの歌を楽しむ

4 回目 9/25 〈集団行動を楽しむ・集団での話し合いができる〉

- 1) 仲間で行動するゲームの実施
- 2) グループの話し合いを行うゲームの実施
- 3) 集団で手遊び歌を楽しむ

5 回目 10/16 〈集団行動に慣れる・友達の気持ちや話に関心を持つ〉

- 1) 集団行動ゲームを実施
- 2) 表情カードをもとに経験を語る
- 3) 集団で手遊び歌を楽しむ

6 回目 10/23 〈友達との共通点を探る・経験から気持ちを思い起こす〉

- 1) 共通点を探すゲームの実施
- 2) 経験を聞いて共通する気持ちを知る
- 3) 集団で手遊び歌を楽しむ

7 回目 10/30 〈表情に関心を持つ・経験から友達の気持ちを想像する〉

- 1) 楽しかったことを語り合う
- 2) 小グループで経験を聞き気持ちを想像する
- 3) 手遊び歌を楽しむ

8 回目 11/6 〈友達の経験に関心を持つ・けがをさせた時どうするか考える〉

- 1) 表情カードに沿って経験を語り合う
- 2) けがをさせてしまった時の行動や言葉かけを考え表現する
- 3) 全員で歌う新しい歌を知る

9 回目 11/13 〈友達の経験を聞ける・同じものを見たいときにどうするか考える〉

- 1) 表情カードに沿って経験を語り合う
- 2) 同じものを見たい時の対応を考え身体表現してみる
- 3) 全員で歌い身体表現する新しい歌を覚える

10 回目 11/27 〈友達の経験に関心を持ち聞ける・横入りされたときにどうするか考える〉

- 1) 表情カードに沿って経験を語り合う
- 2) 横入りされた時の対応を考え身体表現してみる
- 3) 全員で歌う歌に表情や動きをつけて歌う。

11 回目 12/6 〈友達の経験に関心を持ち聞ける・交代してもらえない時にどうするか考える〉

- 1) 表情カードに沿って経験を語り合う
- 2) 交代しようとしなない他者への対応を考え身体表現してみる
- 3) 全員で表情や動きをつけて歌を歌う。

12 回目 12/11 〈話を聞く態度について知る・これまでのシチュエーションを演じる〉

- 1) 写真を見てよく聞く態度をみつける
- 2) これまでに学んだシチュエーションを劇で表現する
- 3) これまで体験した表現を交えた歌を全員で表現する

4. 子どもたちへの効果 〈成果・課題〉

これまで知らなかった楽しい歌やコミュニケーションゲームを重ねることにより、日常も歌を口ずさむ児童も見られるなど表現を楽しむ気風が生まれた。この取り組みの中では、全員が集団的に取り組みを楽しむことができた。

児童の日常生活で起こりうるシーンを写真で見たり劇化することで、どのように言葉かけをするか話し合うことができ、行動を客観的に捉えるきっかけとなり、ふだんの生活にもこの学びが反映される場面が見られた。ある子はその日どうしても着席できないでいても、そうしながら授業内容はしっかり聞いて覚えているなど、互いの関わりに焦点を当てた授業の効果は高かった。

ただ12回という授業の回数は、知的障害と重複して社会性に課題のある児童たちには決して多い回数ではなく、この授業後はその効果が薄れる可能性は高い。今回の授業で研究を重ねた内容をどのように日常の授業に取り入れ活かしていくかが今後の課題となる。